

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(生命理工医療科学先端研究特論)(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1. 講師 昭和大学 名誉教授 川和 忠治 先生
2. 演題 50年経過における補綴処置を考察する
—主体の老化と刺激による変化—
3. 日時 2019年2月14日(木) 17:00~18:00
4. 場所 7号館2階(歯学部校舎棟)歯学部第2講義室
5. 要旨

日常の臨床において、補綴治療を行う前に保存不可能な歯の抜歯、保存可能な歯の抜髄・感染根管治療、歯列矯正、顎位の修正などの前処置を行わなければならない症例が多い。とりわけ抜歯については、1歯によってブリッジになるか部分床義歯になるかを左右することがあるので、十分な診査はもとより、患者の職業、年齢などを考慮したうえで、より慎重な診断が必要である。

ここに紹介する症例は、上顎前歯部の審美的不満と臼歯部における咀嚼障害を主訴として、1968年9月に東京医科歯科大学歯学附属病院に来院した20歳の女性である。その診断、治療方針、治療経過等について解説させて頂き、本症例を通して、いささかでも日常における臨床の参考になれば幸いです。

連絡先:三浦 宏之(岡田 大蔵)(摂食機能保存学分野 内線5521)